

HOHMI

カプセルコン

Y C シリーズ 取扱説明書



納入日から1年間を保証期間といたします。

ただし、次の場合は保証から除外されます。

- (1) 経時変化あるいは使用損耗により発生する不具合（塗装・メッキ等の自然退色、消耗部品の劣化など）
- (2) 本製品の品質、機能上影響のない軽微な感覚的現象
- (3) 地震・台風・水害・落雷などの天災または事故、火災など
- (4) 弊社または弊社の代理店によって認められていない改造など
- (5) 純正部品以外の使用
- (6) 保守点検上の不備または間違い
- (7) 指定代理店以外による整備
- (8) この製品のご使用中に発生した故障に起因する種々の出費、その他二次的損害の補償

※ご使用中万一故障した場合には、弊社または販売店へお申し出ください。

※本装置の保証は日本国内で使用する場合に限ります。

発売元



アイ・エイ・シー株式会社

製造元

株式会社八重崎空圧

はじめに

- ・本取扱説明書は、仕様、部品名称、据え付け、運転、保守点検、保証に関する説明書です。良くお読みになり、内容をご理解の上ご使用ください。

ドレンの排出について

- ・コンプレッサー全体にいえることですが、大気を圧縮して圧縮空気を作り出す際に大気中に含まれている水分（ドレン）がタンク内に溜まってきます。これを抜かないと、作動不良やこれが原因のモーター焼損など思わぬ事故につなが



ドレンコック付近に
貼られているラベル

モーター焼損保護装置（サーマルスイッチ）について

- ・モーター内部に焼損保護装置（サーマルスイッチ）が設けてあります。モーターに過負荷がかかり、回転しない場合および過熱（モーターフレームの温度：115℃以上）の場合は、モーター内部に内蔵されたサーマルスイッチが作動してモーターの焼損を防止します。このような場合は、元電源を切ってモーターフレームの温度が40℃くらいに降下（30分経過）したらリセットボタン（赤色）を押して、元電源を入れて起動してください。
 - ・ただし、YC-4シリーズは、自動復帰型になっています。約30分経過してモーターフレームの温度が40℃くらいに降下したら元電源を入れて起動してください。
- ※スイッチ付きブレーカーがはたらいて、スイッチがOFFになっている場合は上記の手順の後にスイッチをONにしてください。

弊社からのお願い

- ・取扱説明書は、運転および保守点検をする方の近くに必ず保管しておいてください。なお、製品の保証については、最終ページを参照してください。
- ・取扱説明書や製品に貼られている注意銘板の内容をよく読み、据え付けや運転や保守点検を実施してください。
- ・据え付け・運転・保守点検の前に取扱説明書をよく読んで、注意事項や操作、取扱方法などの指示に従って正しくご使用ください。
- ・この取扱説明書に記載してある事項を守り、ご使用ください。また、定期的な保守点検を行なってください。
- ・取扱説明書に記載されていない使用方法や純正部品以外の使用や改造は行なわないでください。
- ・取扱説明書に関する不明点は、弊社もしくは取扱店までお問い合わせください。
- ・取扱説明書に記載してある内容については、改良などの理由で予告なしに変更することがありますのでご了承ください。
- ・故障などが発生した場合や交換部品が必要な際、弊社または取扱店までご連絡ください。その際には、お客様のご連絡先、型式や製造番号などの製品情報、具体的な不具合内容をご連絡ください。
- ・弊社の製品は日本国内専用です。海外では使用しないでください。
- ・重要設備に使用される場合は必ず予備機を準備してください。故障やサーマルスイッチの作動などにより、コンプレッサーが停止する場合があります。
- ・必ず、接地（アース）工事を行なってください。ガス管には絶対に接地しないでください。
- ・電源は必ず電動機保護兼用漏電遮断器を通して1台ずつ単独で接続するようにしてください。

安全上のご注意

使用方法を誤ると発火事故や感電事故などの恐れがあります。据え付け・運転・保守点検の前に取扱説明書をよく読んで、注意事項や操作、取扱方法などの指示に従って正しくご使用ください。
指示事項は危険度、障害度により「警告」、「注意」に区分けしてあります。

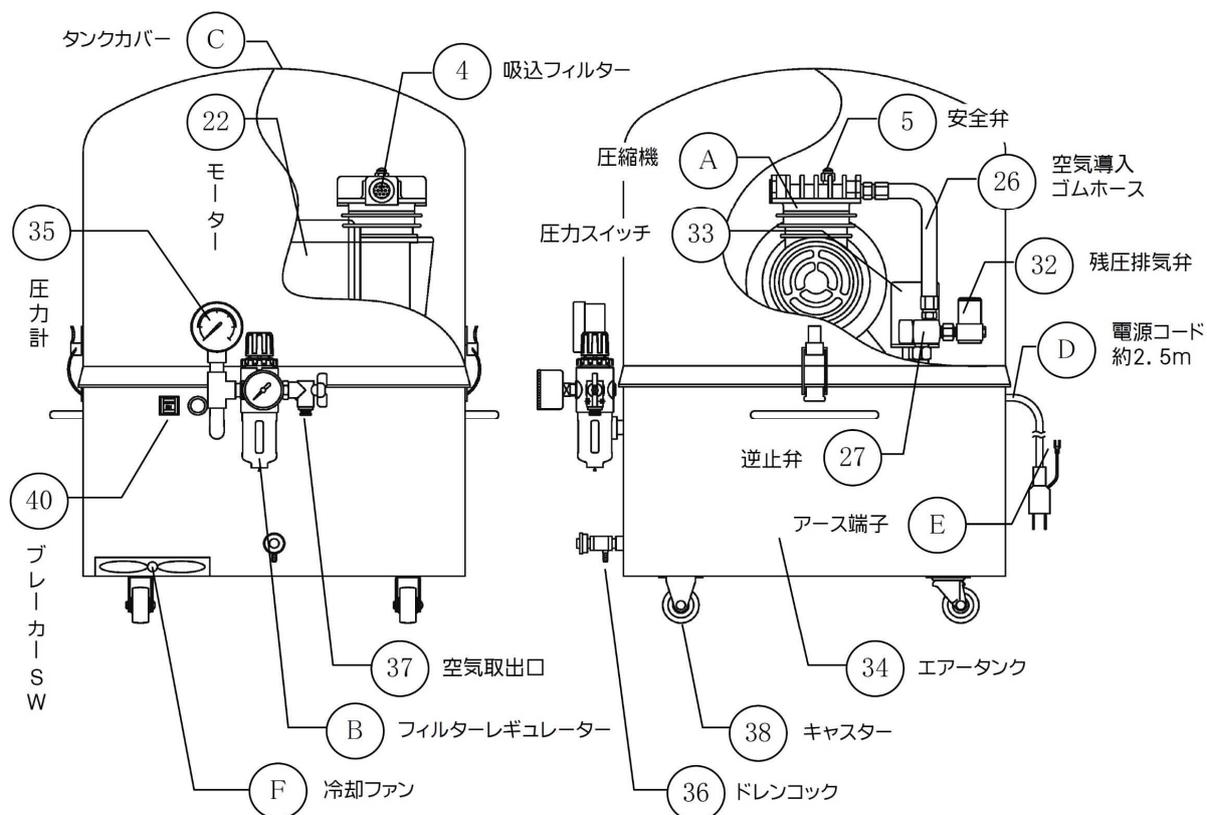
 **警告** 誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

 **注意** 誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

 **禁止** この記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。

部品名称一覧（製品外観）

下の図はR（RS）タイプ

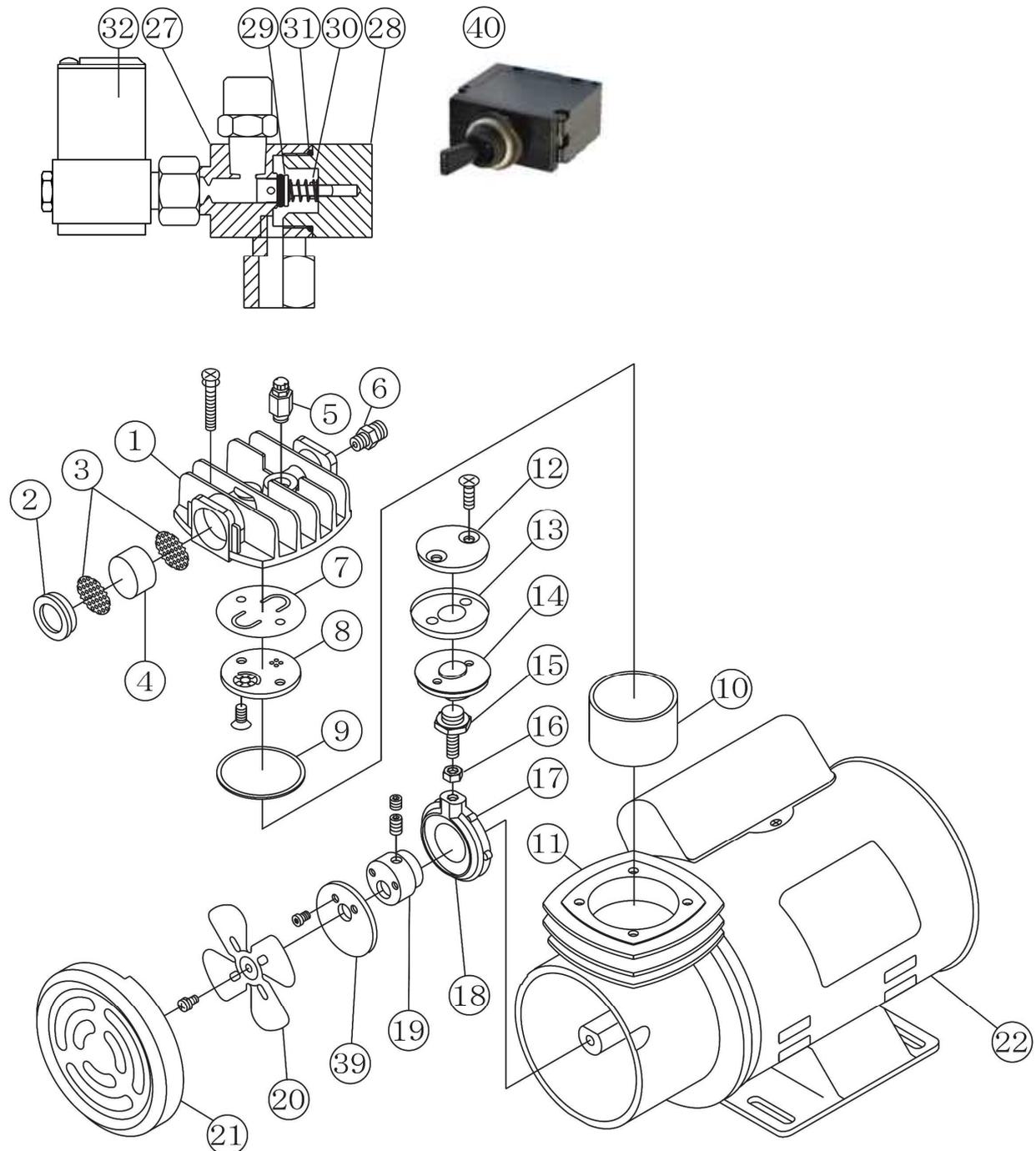


※R（RS）タイプ：ドレン水用ボトルとビニールチューブが付属します。

- 4. 吸込みフィルター：吸入空気を浄化する。
 - 5. 安全弁：仕様の最高圧力より約0.2 MPa上昇した場合、外部に圧縮空気を放出。
 - 22. モーター：動力源。
 - 26. 空気導入ゴムホース：圧縮機からエアータンクへの空気導入用。
 - 27. 逆止弁：エアータンク内の空気の逆流防止用。
 - 32. 残圧排気弁：モーター停止後、圧縮機と耐圧ホース内の残圧を排気する。
 - 33. 圧力スイッチ（開閉器）：圧縮空気の圧力を感知してモーターの運転を行う。
 - 34. エアータンク：圧縮空気の貯蔵部。
 - 35. 圧力計：タンク内の圧縮空気の圧力を指示。
 - 36. ドレンコック：空気タンク内に溜まったドレンを排出。
 - 37. 空気取出口：タンクより圧縮空気を取り出す。
 - 38. キャスター（R型・RS型） ゴム足（F型）
 - 40. ブレーカーSW：スイッチとブレーカー共用。
 - A. 圧縮機：吸入した清浄な空気を圧縮して高圧にする。
 - B. フィルターレギュレーター（R型・RS型）：供給側の圧力を調整。
 - C. タンクカバー：消音及び安全のための圧縮機本体のカバー。
 - D. 電源コード E. アース端子
 - F. 冷却ファン（F型・R型・RS型）：圧縮機の温度上昇を抑える。
- ※YC-3/YC-4（冷却ファンなし）：全密閉型のため、連続運転には不向きです。連続運転をする場合はCのタンクカバーを外して使用してください。

部品名称一覧 (ヘッド内部)

- | | | | |
|--------------|--------------|-----------------|-------------|
| 1.ヘッドカバー | 11.ケース | 21.ケースカバー | 31.逆止弁パッキン |
| 2.空気取入口 | 12.ピストンリング押え | 22.モーター | 32.残圧排気弁 |
| 3.吸込押え板 | 13.ピストンリング | 23.モーター用リセットボタン | 33.圧力スイッチ |
| 4.吸込フィルター | 14.ピストン | 24.レール | 34.エアータンク |
| 5.安全弁 | 15.ロット | 25.防振ゴム | 35.圧力計 |
| 6.ニップル | 16.ロットナット | 26.空気導入ゴムホース | 36.ドレンコック |
| 7.テフロンバルブ | 17.ロットリング | 27.逆止弁本体 | 37.空気取出口 |
| 8.バルブ板 | 18.ロットベアリング | 28.逆止弁ガイド | 38.キャスター等 |
| 9.シリンダーパッキン | 19.エキセン | 29.逆止弁バルブ | 39.エキセンバランス |
| 10.シリンダーライナー | 20.冷却ファン | 30.逆止弁スプリング | 40.ブレーカーSW |



仕様一覧

型式	モーター出力 (V/W)	自動圧力SW (MPa)	空気吐出量(L/min)		タンク容量 (L)	空気取出口 口径(Rc)	騒音 (dB)	重量 (kg)	冷却ファン
			50Hz	60Hz					
YC-3	100/200	0.5×0.65	9.5	11	8	1/4	43	24	無
YC-4	100/200	0.5×0.65	19	22	12	1/4	45	35	無

YC-3F	100/200	0.5×0.65	9.5	11	8	1/4	46	24	有
YC-4F	100/200	0.5×0.65	19	22	12	1/4	48	35	有
YC-6F	100/400	0.5×0.65	40	49	27	1/4	57	50	有

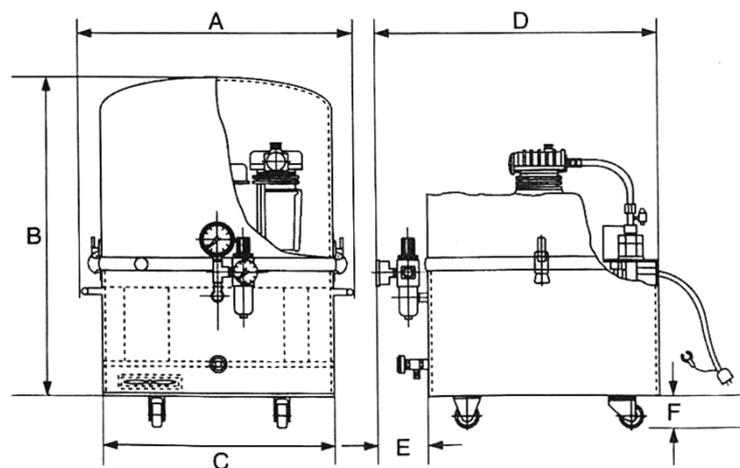
型式	モーター出力 (V/W)	自動圧力SW (MPa)	空気吐出量(L/min)		タンク容量 (L)	空気取出口 口径(ワンタッチ)	騒音 (dB)	重量 (kg)	冷却ファン
			50Hz	60Hz					
YC-3R	100/200	0.4×0.55	11	13	8	φ6	46	24	有
YC-4R	100/200	0.4×0.55	26	31	12	φ6	48	35	有

YC-3RS	100/200	0.4×0.55	11	13	8	φ6	46	24	有
YC-4RS	100/200	0.4×0.55	26	31	12	φ6	48	35	有

寸法図

(mm)

型式	A	B	C	D	E	F
YC-3	400	490	330	380	50	0
YC-3F	400	490	330	380	50	25 ゴム足
YC-3R	400	490	330	420	90	50 キャスター
YC-4	470	550	400	450	50	0
YC-4F	470	550	400	450	50	25 ゴム足
YC-4R	470	550	400	490	90	50 キャスター
YC-6F	490	695	430	480	50	25 ゴム足



現品の確認

- ・ 銘板の型式を見て、ご注文の製品とあっているかどうかを確認してください。
- ・ 輸送中に破損や変形がないかどうかを確認してください。

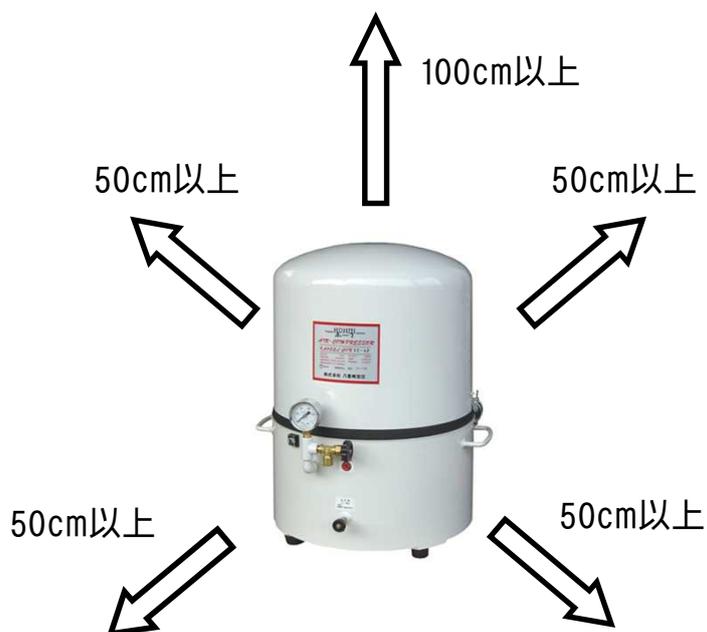


装置の概要

- ・ 電源プラグをコンセントに差し込むと、モーターが回転して、タンクにエアーを蓄圧します。タンク内にエアーが充満すると圧力スイッチが作動し、自動的にモーターが停止します。スイッチ付きブレーカーのスイッチがONになっていないと作動しません。タンク内圧力が圧力スイッチの作動範囲まで下降していない場合は、電源を入れても作動しません。

据え付けスペースの確認

- ・ 据え付けを行なう際はメンテナンスや吸気／排気を考慮して、下記のスペースを確保してください。
- ・ タンクカバーは、止め金具を外して、上方に持ち上げるので、十分な空間が必要です。



据え付けについて



- ・重要設備に使用される場合は必ず予備機を準備してください。故障やサーマルスイッチの作動などにより、コンプレッサーが停止する場合があります。
- ・爆発性ガス、可燃性ガス、火薬類などの雰囲気中では使用しないでください。
- ・アンモニア、酸類、塩分、オゾンガスなど腐食性ガスの雰囲気中では使用しないでください。
- ・必ず、接地（アース）工事を行なってください。ガス管には絶対に接地しないでください。
- ・雨や蒸気など水分のかかる場所や湿度の高い場所では使用しないでください。
- ・0℃以下、40℃以上の周囲温度では使用しないでください。
- ・箱などに入れて、密閉状態で使用しないでください。
- ・電源コードに傷をつけたり、破損させたり、加工をしたりしないでください。
- ・電源コードやプラグが傷んでいる場合には使用しないでください。
- ・電源は必ず電動機保護兼用漏電遮断器を通して1台ずつ単独で接続するようにしてください。

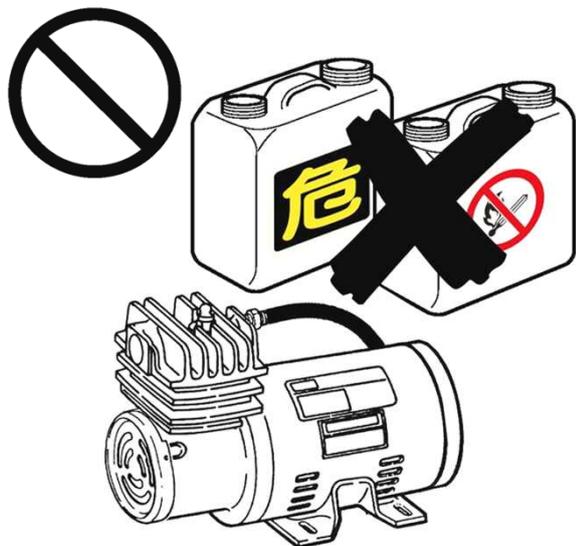
据え付けについて



- ・元電源がご使用される製品の電圧と合っているかどうかを確認してください。
- ・元電源は、規定以上の容量としてください。
- ・日本国内専用です。
- ・ゴミやホコリの多い場所での使用はしないでください。
- ・濡れた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。
- ・使用する場所はいつもきれいに、十分に明るくしてください。
- ・高いところに設置する際には、落下しないように固定するなどの対策をとってください。また、横倒しはしないでください。
- ・電源プラグを抜き差しするときは電源コードを持たず、必ず先端の電源プラグを持ってから抜き差ししてください。
- ・空気導入ホース部を持ってコンプレッサーを動かさないようにしてください。
- ・延長コードの接続をできるだけ避け、直接元電源に接続してください。
- ・延長コードを使用する場合は、他の機器との併用は避けてください。
- ・配管は確実に接続してください。
- ・コンプレッサーの上には物を置かないでください。

据え付けについて

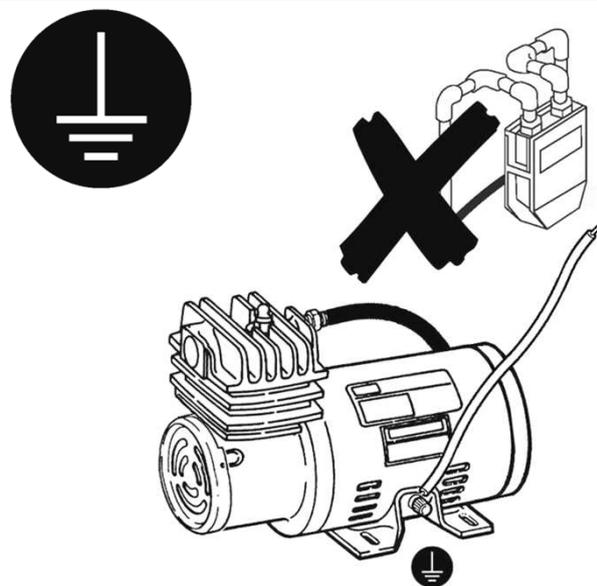
 **警告**



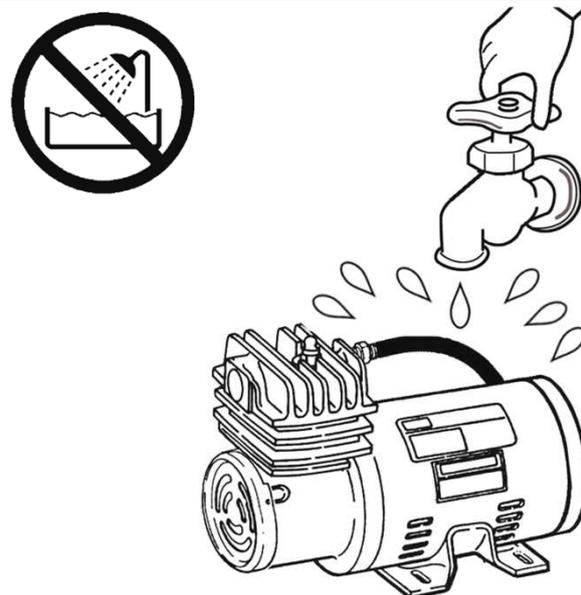
- ・爆発性ガス、可燃性ガス、火薬類などの雰囲気中では使用しないでください。
(火災や爆発事故につながります)



- ・酸類や塩分など腐食成分の雰囲気中では使用しないでください。
(タンクやホースが腐食して思わぬ事故につながります)



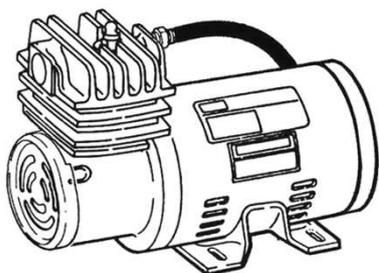
- ・使用する際は必ずアース線を接続してください。ガス管には絶対に接地しないでください。
(火災や爆発事故につながります)



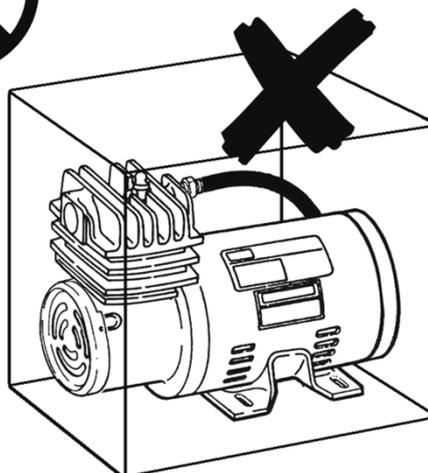
- ・水分や水蒸気がかかる場所や湿度の高い場所では使用しないでください。
(感電事故につながります)

据え付けについて

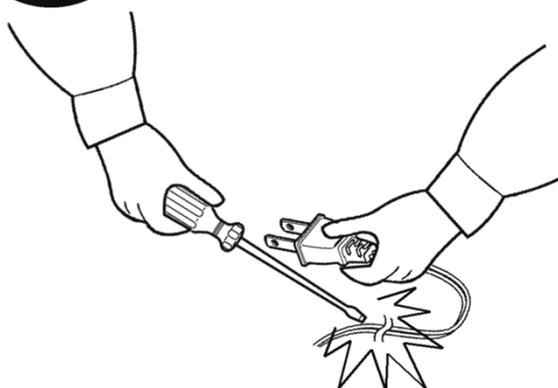
 **警告**



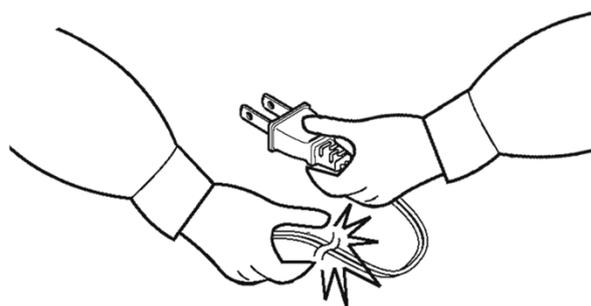
- ・ 0℃以下、40℃以上の周囲温度では使用しないでください。
(寿命の低下や故障につながります)



- ・ 箱などに入れて、密閉状態で使用しないでください。
(摺動部の過熱、ゴムホースの破損につながります)



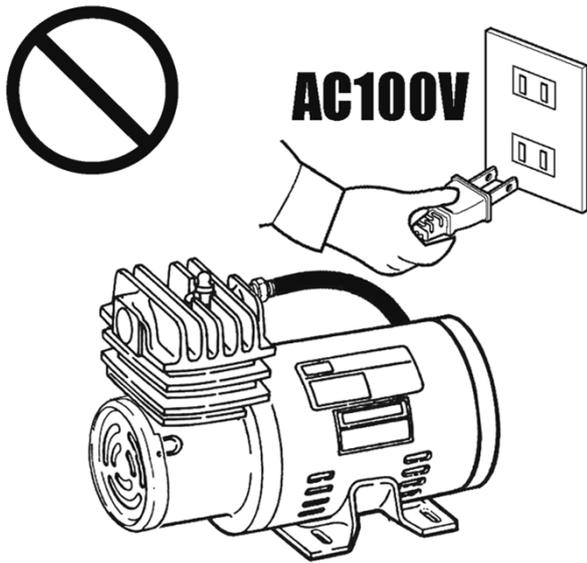
- ・ 電源コードに傷をつけたり、破損させたり、加工をしたりしないでください。
(火災、感電事故につながります)



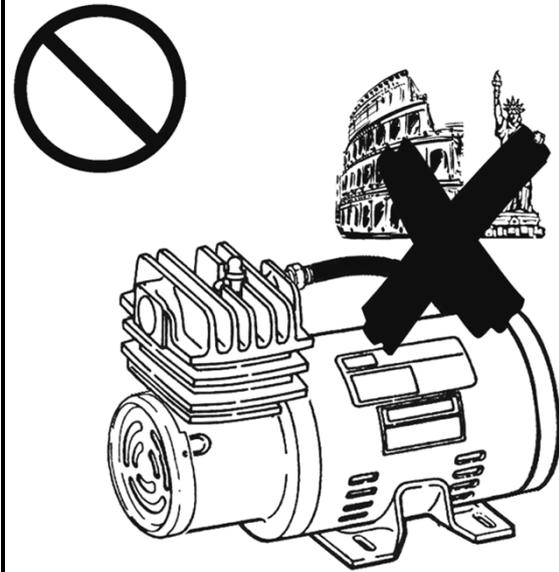
- ・ 電源コードやプラグが傷んでいる場合には使用しないでください。
(ショート、発火、感電事故などにつながります)

据え付けについて

⚠ 注意



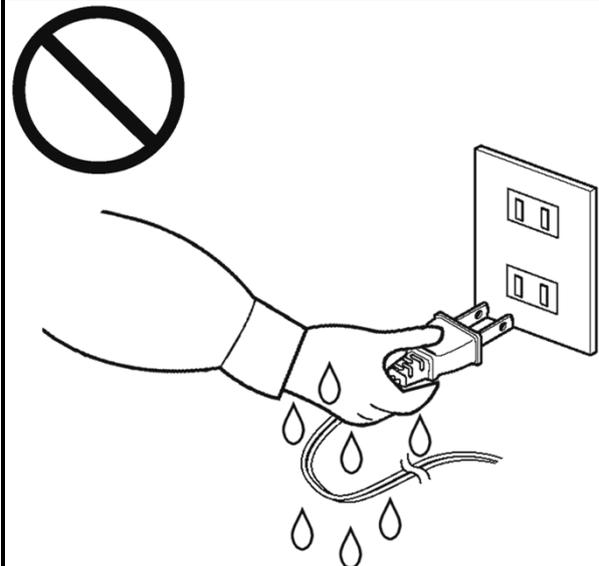
- ・元電源が製品の電圧と合っているかを確認してください。
(ショート、発火、感電事故などにつながります)



- ・交流100V以外での使用はしないでください。
(日本国内専用です)



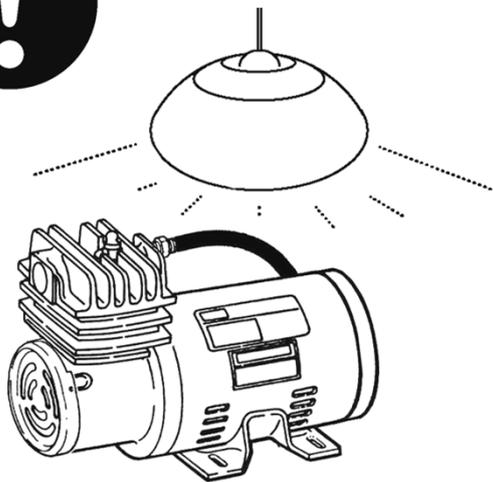
- ・ゴミやホコリが多い場所では使用しないでください。
(摺動部の過熱、部品の異常磨耗につながります)



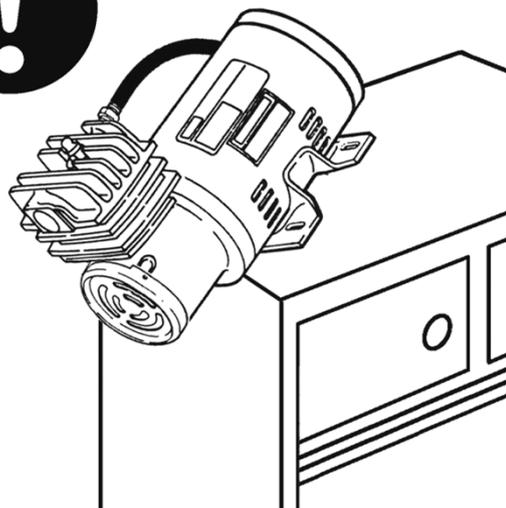
- ・濡れた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。
(感電事故につながります)

据え付けについて

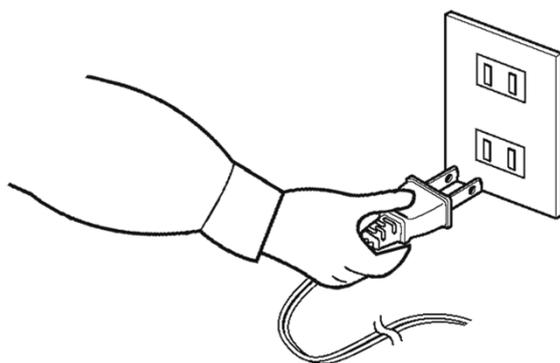
⚠ 注意



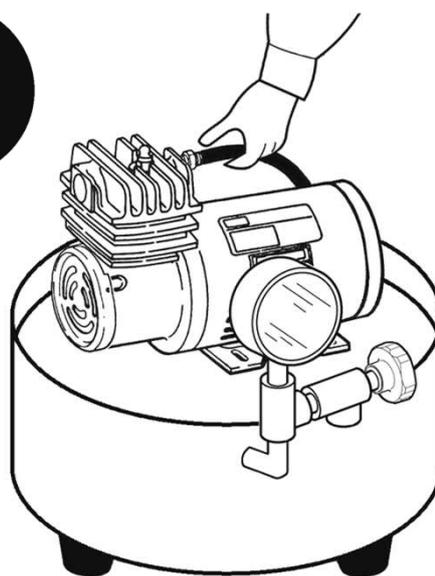
- ・使用する場所は、いつもきれいに十分に明るくしてください（煩雑な場所や暗い場所は思わぬ事故につながります）



- ・高いところなどに設置する際には落下しないように固定するなどの対策をとってください。（落下によるケガにつながります）



- ・電源プラグを抜き差しするときは電源コードを持たず、必ず先端の電源プラグを持ってから抜き差ししてください。



- ・空気導入ホース部を持ってコンプレッサーを動かさないようにしてください。（ケガや破損の原因となります）

運転について



警告

- ・圧縮空気およびドレンには、大気中の水分などが含まれています。圧縮空気やドレンを顔に向けて排出しないでください。
 - ・落としたりぶついたりした際は、本体やタンクに破損や亀裂、変形がないことを確認してください。異常がある場合にはそのまま使用せず、修理依頼をしてください。
 - ・作業関係者以外（特にお子様）は近づけないでください。
 - ・コンプレッサーのヘッドカバー部やモーターフレーム部は、高温になりますので手を触れないでください。
 - ・ケースカバーの中や稼動部分等へ指などを入れないでください。
 - ・異音がしている場合は使用を中止して、弊社または販売店へご連絡ください。
 - ・一日の作業が終了したら、元電源を切ってください。
 - ・タンクドレンの排出は、作業終了後（毎日）必ず行なってください。ドレンを排出する際に、ドレンコックを一気に開放するとドレンが飛散して周囲を汚してしまう可能性があります。ドレンを排出する際は、ウエス等でドレンコックを押えるようにして、徐々に開放していくとうまくドレンが抜けます。
 - ・モーター内部に焼損保護装置（サーマルスイッチ）が設けてあります。モーターに過負荷がかかり、回転しない場合および過熱（モーターフレームの温度：115℃以上）の場合は、モーター内部に内蔵されたサーマルスイッチが作動してモーターの焼損を防止します。このような場合は、元電源を切ってモーターフレームの温度が40℃くらいに降下（30分経過）したらリセットボタン（赤色）を押して、元電源を入れて起動してください。
 - ・ただし、YC-4シリーズは、自動復帰型になっています。約30分経過してモーターフレームの温度が40℃くらいに降下したら元電源を入れて起動してください。
- ※スイッチ付きブレーカーがはたらいて、スイッチがOFFになっている場合は上記の手順の後にスイッチをONにしてください。

運転について

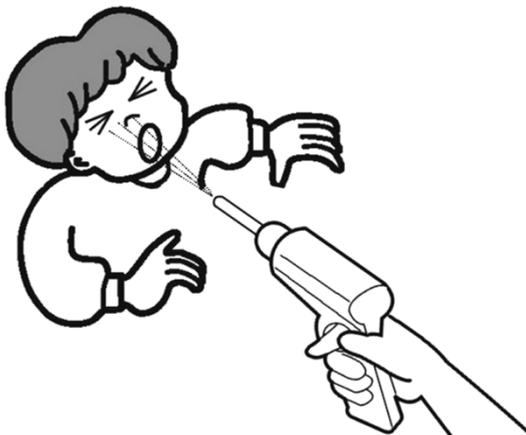


注意

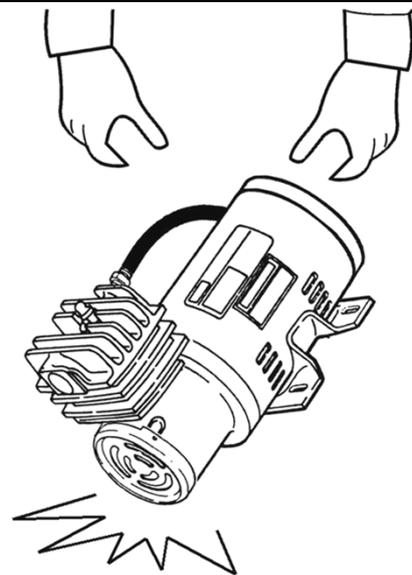
- ・規定電圧より高い状態や低い状態で使用した場合、性能の低下や故障の原因となりますので、適正な電源で使用してください。
- ・停電や落雷の恐れのある場合、必ず元電源を切ってください。
- ・タンク内の圧力が圧力スイッチの作動範囲まで下降していない場合は、電源を入れても作動しません。タンク内のエアを抜いていき、作動するかの確認をしてください。

運転について

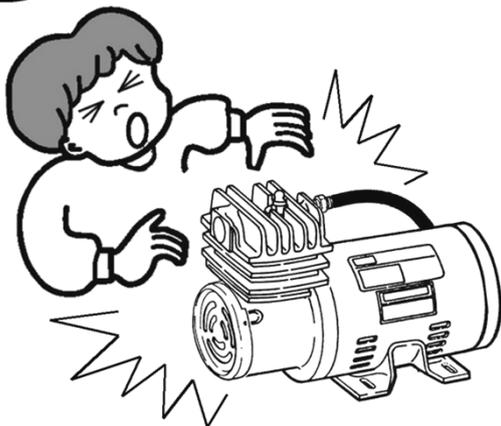
⚠ 警告



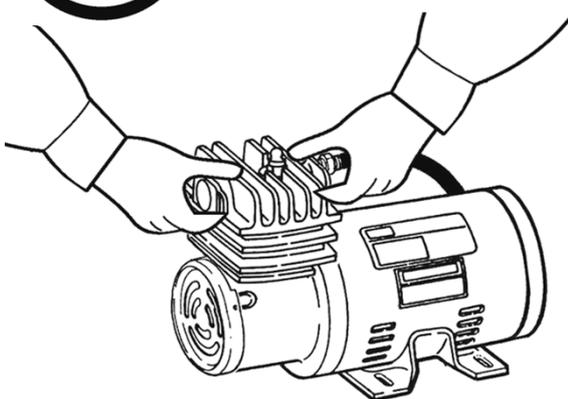
・ 圧縮空気やドレン水を顔に向けて排出しないでください。
(思わぬケガにつながります)



・ 本体やタンクに破損や亀裂、変形がある場合には使用しないでください。
(思わぬ事故につながります)



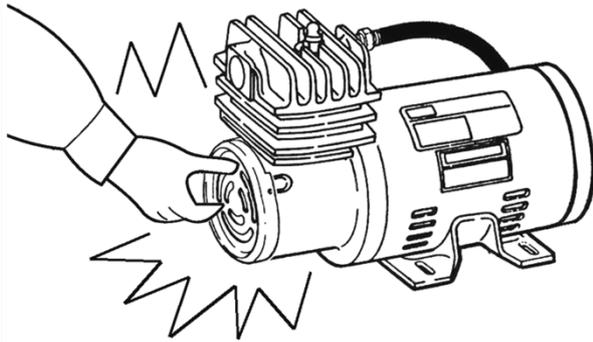
・ 作業関係者以外（特にお子様）は近づけないでください。
(思わぬケガにつながります)



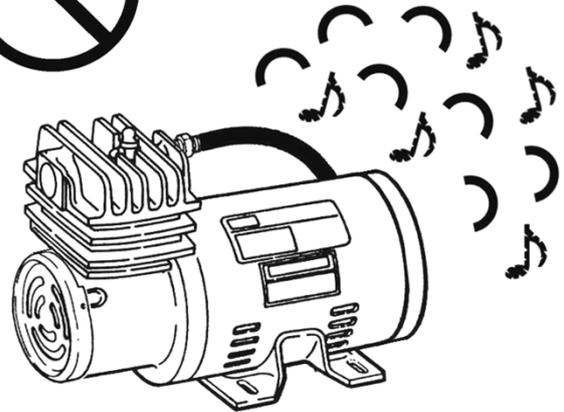
・ ヘッドカバーやモーターフレームは高温になるので手を触れないでください。
(やけどやケガにつながります)

運転について

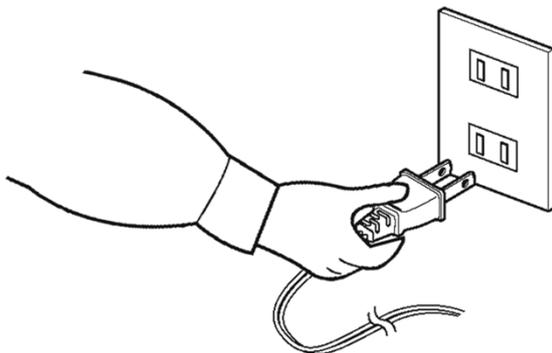
⚠ 警告



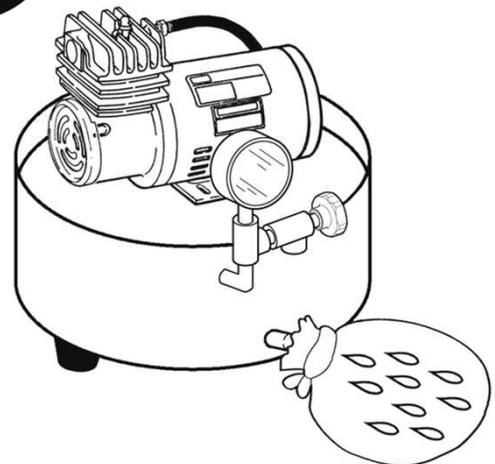
- ・ ケースカバーの中や稼動部分等へ指などを入れないでください。
(思わぬケガにつながります)



- ・ 異音がしている場合は使用を中止して、弊社または販売店へご連絡ください。
(思わぬ事故につながります)



- ・ 一日の作業が終了したら、元電源を切ってください。
(無人時に作動したりして、思わぬ事故につながります)



- ・ タンクドレンの排出は、作業終了後(毎日)必ず行なってください。
(作動不良やモーター焼損など思わぬ事故につながります)

保守点検について



警告

- ・保守・点検の際は、必ず元電源を切り、空気タンクの圧縮空気を完全に抜いてから行なってください。
- ・純正部品以外の部品は、使用しないでください。交換部品が必要な際は、弊社または取扱店へご連絡ください。
- ・製品の改造や部品の改造は絶対にしないでください。

保守点検について

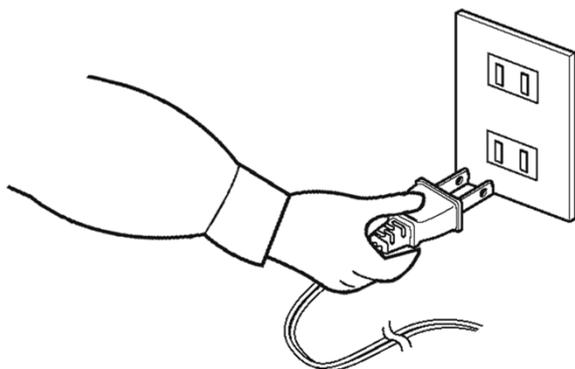


注意

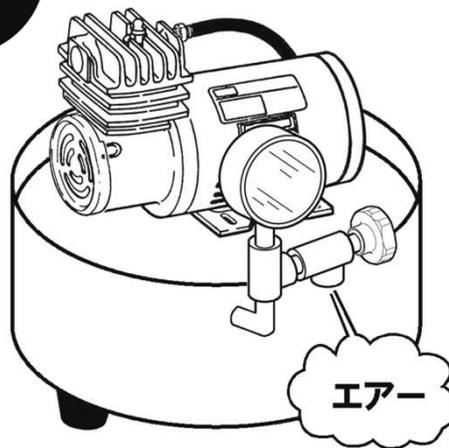
- ・長期間使用しない場合は、エアータンク内のドレンを完全に抜き取り、元電源を切ってください。
- ・保管する際は、高温多湿の場所を避けてください。
- ・吸込口フィルター部分にホコリやゴミが詰まると、空気の吸い込みが悪くなり圧力の上がりが遅くなりますので、月に一度くらいは埃を落としてください。汚れがひどい場合には、新品と交換してください。
- ・圧力が上がらなかつたり時間がかかる場合には、テフロンバルブ、ピストンリングなどを新品と交換することが必要となります。なお、シリンダーパッキンも一緒に交換が必要となります。
- ・圧力が上がらなかつたり時間がかかる場合には、ゴムホースの亀裂や破損などが考えられますので、交換が必要となります。
- ・タンク内の空気圧が空気取出口のストップバルブおよびタンクドレンコックを閉めてもなおタンク内の空気が洩れる場合には、逆止弁の修理もしくは交換が必要です。
- ・停止時に逆止弁の残圧排気弁からエアーが漏れている場合は、逆止弁の本体に原因がある場合が多いです。むやみに残圧排気弁の分解はしないでください。中の細かい部品が欠落して再組み立て不可能となります。
- ・モーター焼損保護装置が連続して作動する場合（リセットボタンを何度も続けて押すような場合）には、コンプレッサー運転部分に何らかの故障がありますので分解点検の必要があります。
（スイッチ付きブレーカーのブレーカーがOFFになる場合も同様です）
- ・圧力スイッチの作動不良の場合の安全装置として、安全弁を設けてあります。仕様の最高圧力より約0.2 MPa上昇すると作動します。
- ・17ページの故障の原因とその処置も参照してください。

保守点検について

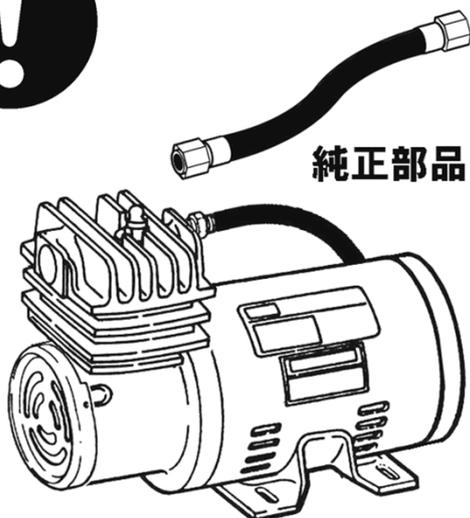
警告



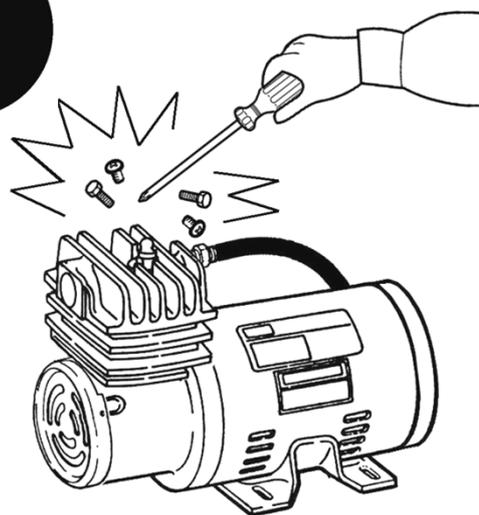
- ・保守・点検の際は、必ず元電源を切ってください。
(ショート、発火、感電事故などにつながります)



- ・保守・点検の際は、タンクや配管の中のエアを抜いてください。
(エアの吹き出しなどによる事故につながります)



- ・純正部品以外は、絶対に使用しないでください。交換部品が必要な際は、弊社または取扱店へご連絡ください。

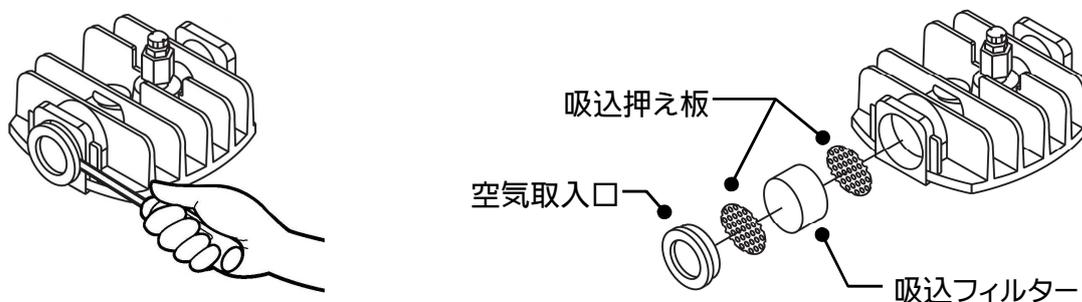


- ・製品の改造や部品の改造は絶対にしないでください。
(思わぬ事故につながります)

故障の原因とその処置

	故障の種類	原因	処置
起動する	最高圧力まであがらない 又は時間がかかる	テフロンバルブの破損、作動不良	販売店に相談
		シール不良	販売店に相談
		ネジ部又は配管部のゆるみ	締めなおす
		ピストンリングの摩耗、作動不良	販売店に相談
		吸込口フィルターの汚れ、詰り	清掃または新品と交換
		空気導入ゴムホースの破損、亀裂	新品と交換
		逆止弁の固着、詰り、故障	清掃または新品と交換
	最高使用圧力以上に上がる	圧力スイッチ及び安全弁の 作動圧力の不良	販売店に相談
	異常音がする	各部分のネジのゆるみ	締めなおす
		ピストン上部がバルブ板に当たる	販売店に相談
モーター及びロットベアリングの ベアリング部分のゆるみ		販売店に相談	
異常にモーターが過熱する	電圧の低下	電気工事店に相談	
	コンプレッサーの異常	販売店に相談	
起動しない	音がしない	モーター焼損保護装置が作動	リセットボタンを押す
		断線又は接続不良	配線部点検
		モーターの故障	販売店に相談
	モーターがうなる	電圧の低下	電気工事店に相談
		コンプレッサーの異常	販売店に相談
		モーターの異常	販売店に相談

- ・ 使用時間（250時間）を目安に吸込フィルターの点検を行い、汚れている場合には新品と交換してください（下図を参照してください）。



- ①（－）ドライバーなどを差し込んで空気取入口を外します。
- ②吸込フィルターを取り出して新しいものと交換します。
- ③交換したら組み立ててください。空気取入口は軽くたたいてください。

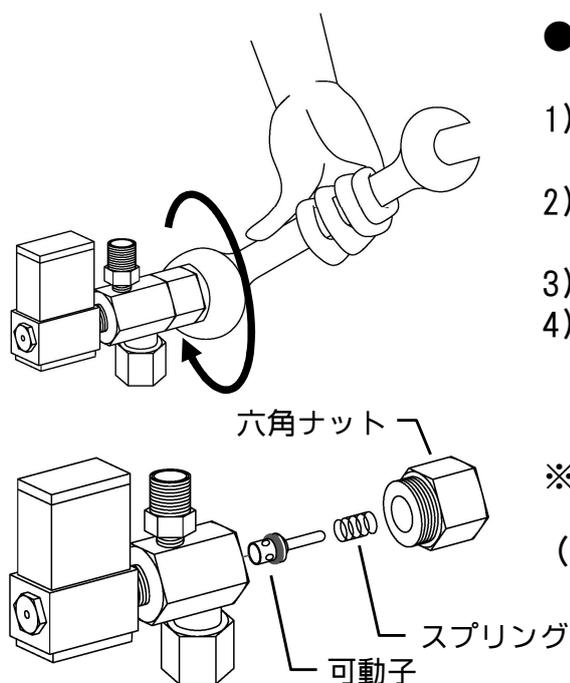
保証

- ・本機は、厳重な品質管理と検査工程を経てつくられた製品です。タンクの耐圧試験圧力は0.9MPaで実施しております。
- ・本機は天災および取扱上の不注意による損傷を除いて、納入後一年間保証されその期間内における故障は無料で修理いたします。

修理

- ・本製品の修理は下記発売元または販売店へご依頼ください。
- ・修理品を送付の際は異常内容を詳しく記載してください。

逆止弁可動子の交換方法



●逆止弁の可動子交換

- 1)まず電源を切って、エアータンクの空気を抜いてください。
- 2)六角ナット（対辺25mm）をスパナを用いて反時計回りへ回し、外してください。
- 3)中から可動子とスプリングが取り出せます。
- 4)交換したら元通りに組み立ててください。
このときに部品を入れる順番を間違えないようにしてください。

※製作時期により、逆止弁内部の構造が若干異なる場合があります。
(可動子・スプリング・六角ナット)

この製品についてのお問い合わせは

発売元



アイ・エイ・シー 株式会社

〒225-0014 神奈川県横浜市青葉区荏田西1-1-10

TEL:045-914-7877 FAX:045-913-7878

URL : <http://www.iac-ne.co.jp>

E-mail : info@iac-ne.co.jp

製造元

株式会社八重崎空圧